

フパルシ



認定番号 27

樹種名	フパルシ	科名	シクンシ科	方言名	クワディーサー	学名	<i>Terminalia catappa L.</i>				
形状・寸法	樹高 6.1 m	胸高周囲 4.7 m	根本周囲 6.2 m	樹幹占有面積 147 m ²							
	枝下高 2.1 m	枝張 東 8.8 m	西 6.5 m	南 7.4 m	北 4.7 m	最大樹冠幅 15.2 m					
通称	フパルシ	樹齢	400年(推定)								
所在地	今帰仁村字今泊3117			所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 其他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 其他民有 9 不明						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 ()			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 その他 7 なし			気象条件 地点:名護 年度:2016年 (気象庁HP)	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 (湿地)				平均気温(°C)	16.7	16.1	18.1	22.7	25.3	28.1
	土地傾斜	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			降水量(mm)	237.0	123.0	212	357.0	124.5	309.5
土壌		1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			平均風速(m/s)	4.0	4.5	3.7	3.6	3.2	3.5
	基岩・母材				風向	NNE	S	S	NNE	S	WNW
地形		1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪地 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			平均気温(°C)	29.6	29.4	28.2	27.4	22.3	19.8
根元及び周囲の植生		草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			降水量(mm)	101.0	172.0	359.0	139	117.5	28.5
	管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ 0.8 m 材質 コンクリート 柵内面積 53 m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他			潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)					
過去の治療歴と内容		約30年前に山野氏による治療が行われた。 補修モルタルが劣化し、落花の可能性が高い。 コンクリート支柱にひび割れが見られる。			日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良					
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明			周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))						
	視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし					
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイタビ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 4 その他 観光スポット			周辺樹木との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている						

地上部の衰退度判定（認定番号27）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被書が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常 ○	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし ○	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし ○	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている ○	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る ○	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ ○	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある ○
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通 ○	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く、胴吹きひこばえもない ○	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.00

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

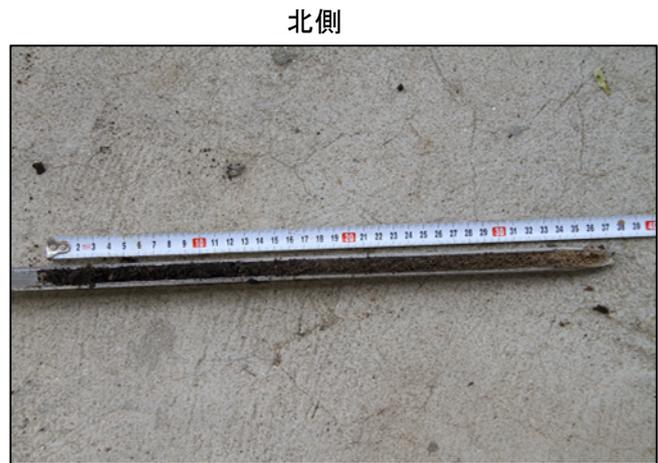
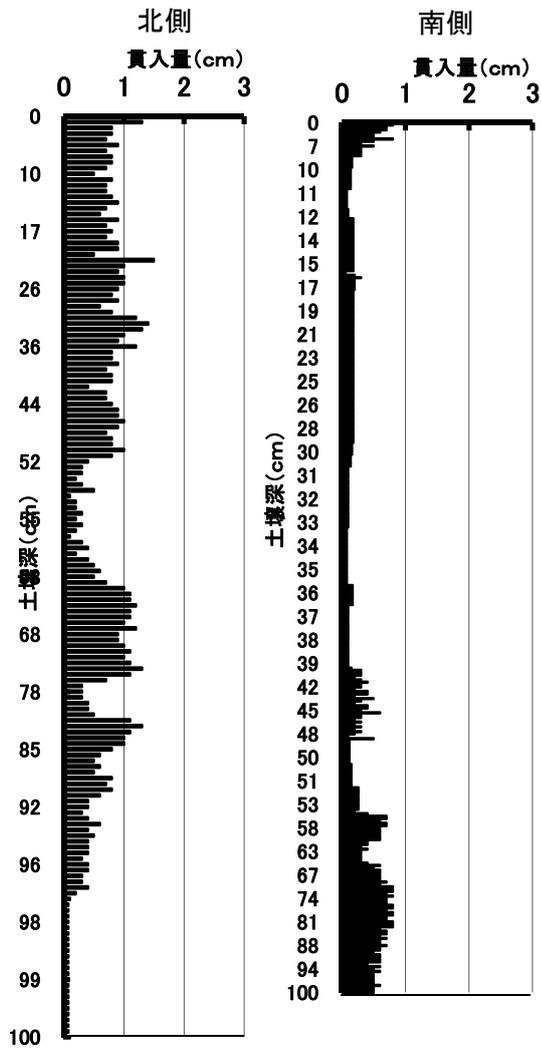
項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○		
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ		○		
中・小枝落下	○			
幹の傾斜の増大	○			
その他()				○

土壤硬度調査結果 (認定番号 27)

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)	調査場所
I	10YR2/3	0-12	団粒状	砂壤土	8.13	9.3	北側
II	10YR3/3	12-25	団粒状	砂壤土			
III	10YR4/3	25-32	粒状	砂土			
IV	10YR5/4	32-	粒状	砂土			

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)	調査場所
I	10YR2/3	0-12	塊状	壤土	8.14	7.53	南側
II	10YR3/3	12-25	団粒状	砂壤土			
III	10YR4/3	25-32	単粒状	砂壤土			

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> 根は柵外に浅く長く伸びていると思われる。柵外は砂利で舗装され、駐車場となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 根の発達を促すため、可能な広さでのエアレーション、柵外の表土を膨軟な土に入れ替え、駐車禁止等を検討する。
根	<ul style="list-style-type: none"> 地際部からルートカラーの損傷が著しい。 露出根は少ないが、根は全般に浅く張っており、一部は5~20cmの深さで北西方向に公民館の犬走りに達している。 	<ul style="list-style-type: none"> 無し
幹	<ul style="list-style-type: none"> 幹は地際部から大枝の分岐点まで、厚さ10cm程度の樹皮、形成層部を残すのみで、全て欠如して筒状となっている。大きく欠損した開口部は鉄骨を編み込んだモルタルで外科的な補修がなされているが、モルタルの劣化が著しく樹幹中の空洞部に崩落している。 樹洞内壁に腐朽菌の子実体(種不明)が見られるが、急速な腐朽の進行は認められない。 	<ul style="list-style-type: none"> 幹・枝のモルタルは全て除去することを検討する。(危険防止の観点からもモルタルの除去は必要で外科的な施術は行わないことが望ましい。)
枝	<ul style="list-style-type: none"> 幹は二叉に分岐している。南西側の分岐部から2mに位置する大枝の切断面から腐朽の進行が見られる。道路に面する高さ3mの位置の大枝は基部から切断され、切断面の腐朽が進行している。 大枝を支える支柱は枝との接触面が経年劣化し、モルタルに亀裂と一部欠損がみられ、枝への食い込みが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> モルタルの撤去後、大枝基部~枝先の腐朽程度から落枝の可能性を検討し、必要に応じて剪定を実施することが望ましい。その後、枝の重さを勘案して適切な箇所へ支柱の再設置を検討することが望ましい。 公民館の庇に設置されている支柱は、適切な箇所に移設するか、枝を切除することが望ましい。
葉	<ul style="list-style-type: none"> モモタマナコブガ、ミノガの被害痕が散見される程度で、葉の大きさ、量、葉色とも異常は認められない。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な観察の実施を検討する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 現在、樹勢は保たれているが樹体の損傷が著しく、物理的に安定性を欠いている。 支柱上部のモルタルの劣化が著しく、支柱の再設置は不可欠と考える。設置の際は外観より強度を重視することが望ましい。 大枝のモルタルは落下の可能性が極めて高く、早急に除去する必要がある。また、当面は柵内への立ち入りの禁止を検討する。 	

